

長瀬中央東部集落「集落営農ビジョン」

作成日： 令和2年 7月 1日
 修正日： 年 月 日

市町村名	湯梨浜町	組織名	長瀬中央東部営農組合
1 地区の範囲 湯梨浜町 長瀬中央東部地区			
2 地区の概要			
水田面積	21.1ha	主な水田栽培作物	農家数
		水稲	60戸
認定農業者数	0経営体	人・農地プランの中心となる経営体数	1経営体
3 組織の概要			
設立時期（規約等の制定日）	平成27年4月1日	構成農家数	34戸
組織形態（該当形態に○を記入） <input type="checkbox"/> 共同利用型 <input checked="" type="checkbox"/> 作業受託型 <input type="checkbox"/> 協業経営型			
4 集積（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標			
	【項目】	【現状】	【目標】 令和5年度
農地の集積	集積面積 A	16.02ha	16.20ha
	対象水田面積 B	20.31ha	20.31ha
	集積率 A/B	78.9%	79.8%
	地区外集積面積 C	0ha	0ha
	経営面積 A+C	16.02ha	16.20ha
世代交代への取組	若手の構成員とベテランの構成員が2人1組で作業を行い、経験やノウハウを次世代に伝承している。	ベテランの構成員から若手の構成員への農作業技術の伝承を継続して行う。	
新規就農者の活動参画	地区内の定年退職者を中心に営農組合に勧誘を行っている。	地区内の定年退職者の営農組合への勧誘を継続して行う。	
5 添付資料 集積状況一覧（別表1、2）、機械の利用計画（別紙）、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料（総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等）			
注1）目標年度は、事業実施最終年度の翌年度から3年以内のいずれかの年度で設定すること。 2）経営面積等の現状及び目標は、集積状況一覧（別表1、2）により作成すること。			

1 集落営農に対する基本方針

【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

※考え方（担い手をどう育成し確保していくか。農地賃借、機械の共同利用、作業受委託、生産の組織化などについて。）

農村が抱える課題である農業従事者の高齢化、後継者不足等は長瀬中央東部地区においても深刻化している。さらに、個々の農業者が農業機械を整備・更新すると負担が大きくなり、個人で農地を維持することが困難となると、たちまち耕作放棄地の発生が危惧される。

こうしたことから、平成27年に地域の農地は自分たちで守ることを目的として、長瀬中央東部営農組合（以下、「組合」という。）を組織し、主に長瀬中央東部地区の耕作が出来ない農業者の農地の耕作を行うこととしている。

水田集積面積は現在16.02haであり、令和5年度には16.20haの集積を目標とする。

2 水田の作付計画（水稲以外の作物を含む）、活用方針・具体策

※考え方（今後伸ばしていく作物は何か。団地化・ブロックローテーション。作物の品質向上。）

水稲経営を基幹として、きぬむすめを中心に近年は星空舞の作付けにも取り組んでおり、新たな品種を導入しながら品質の良い米の生産に努める。地域で連携を図りながら計画的に作付けを行い、地域の農地を守っていく。

3 農業用機械施設の効率利用

※考え方（省力・低コスト化に向け、機械・施設をどのように有効利用していくか。今後整備が必要なもの、JAが整備している施設をどのようにするか。）

組合として、集落内の農業者の生産コスト低減等を図るため、農業機械の個別導入をできる限り回避する方向にしておき、機械整備は組合で実施していく。

集落内の高齢化により、組合が担う農地面積は増加しており、オペレーターの負担は年々大きくなってきている。今後もこれまで通り農地を維持する上で、作業の効率化は必須であり、性能の良いコンバインを導入することで、収穫作業の労力を軽減し、引き続き農地の維持に取り組む。

また、以前から稲わらのロールを作り、耕畜連携による副収入を得ていたが、ジャイロレーキとロールベアラーは上浅津営農組合から借りて作業をしていた。機械を借りての作業の為、適期作業ができずロールの品質も悪いことから、組合で機械を導入して効率的に作業を行うことで、品質の良いわらロールを作り、副収入の増額を目指す。

4 世代交代、組織の後継者育成に関する方針

※考え方（世代交代に備え、組織運営の後継者をどのような方法で育成していくか。新規就農者の活動参画。具体的な取組みの内容について。）

当該組織は34名の組合員で構成されているが、高齢化が進んでおり、今後組織の機能を維持するために、定年退職者を中心に勧誘を進めることとしている。

また、若手の構成員とベテランの構成員が2人1組で作業を行っており、経験やノウハウを次世代に伝承している。

5 経営多角化の方針・具体策

※考え方（どのような手法で多角化を図るか。新規作物の導入、販路拡大に向けた自主的な取組みなどについて。）

ジャイロレーキとロールベアラーを導入し、藁ロールの販売に取り組む。

II 農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額 (円)	導入予定年月	本事業による機械導入に○
コンバイン	70馬力 最高作業速度 1.65m/s	1	9,295,000	令和2年9月	○
ロールベアラー	作業幅800mm 作業速度 3~5km/時 処理能力 80~120バール数/時	1	1,114,000	令和2年9月	○
ジャイロレーキ	作業幅 2,200mm 作業速度 4~8km/時 作業能力 70~130a/時	1	369,000	令和2年9月	○